

2021年度 学校評価 わらべ幼稚園

I 経営の重点にかかわること 評価段階

(A:よくできている B:できている C:あまりできていない D:まったくできていない)

1 園教育・保育目標:やさしく・かしこく・たくましい子		自己評価	評価	園関係者評価委員会から	
2 重点目標 ・仲間の中で成長し仲間を大切に する子 ・丈夫な体を持つ子	園の教育目標を理解し目指す幼児の姿をイメージして、保育の計画を立てる	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活に追われがちですが、教育目標を教員みんなのものとする努力は大切です。困難が生じた時は常にそこに戻り、教育目標を確認して下さい ・2年続いたコロナ禍、わらべの理念に向かって取り組むことは大変だったと思いますが着実に「わらべの保育」が進んでいると思います ・クラス便りで活動や身に付けて欲しい力・考え方など発信してくれるので保護者が理解できた 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・職員でわらべの大事にしたい保育について考える場や共有できる研修会を計画した ・教育目標に沿えるよう心掛けた ・安全面や衛生面など時代に合わせた考え方を計画することに苦しさも感じる ・目指したい保育、つきたい力などの目標にしているが、規制されることが多いと思う ・成長過程を含めた幼児の姿をイメージし保育計画を立てた ・保育時間の違いでの子どもたちの関わり生活を含めた園生活の流れを再確認したい ・コロナ禍 行事や子どもたちのやりたい思いを計画立てるのが難しい ・乳児は個々の発達の差が大きいので保育目標の立て方が難しかった ・子どもの気持ちを受け止め、つけて欲しい力を計画し保育に取り入れた ・子どものつぶやきや表情をキャッチし共感している 				
	(園関係者評価を受けての改善) 毎年教育目標に向かって計画を立て、実行しようと努力している。 *年間計画・期の計画・月の計画・週案などクラスごと立て、保育をしている				
	子どもの発達や生活を見通して環境設定をしている 子ども一人一人をよく観察し子どもの思いやサインを受け止めて保育できている	自己評価	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあって、マスクをしての子どもとの関係は気持ちの共有も難しかったと思います ・園での様子を見るのがほとんどできませんでしたが、園外保育の様子を時々見かけ、「わらべとしての保育」が続いていることを確認できました ・保護者として、子どもから先生との会話など聞けて子どもを受け止めてくれていると感じました ・コロナ禍、参観や懇談ができず子どもの様子が見れずさみしかったです
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが楽しくゆったりできる場所作りをした ・乳児の手作りおもちゃなど発達に合わせて考え作っている ・乳児は一人ひとりに対し、丁寧に見てスキンシップを大事にしたいよう心掛けた ・個々の出すサインを十分受け止めていたか反省する ・十分な安全を確保した環境作りは難しく、もっと伸び伸び遊ばせたい ・室内の環境構成を遊びに合わせて変更し、保育課題に配慮した構成を工夫した ・個々の発達の差が大きく、難しさを感じた ・乳児では活動がスムーズにいく環境構成をし、子どもを見落とさないよう気を付けた ・乳児では言葉が未熟な年齢である為、保育者からの発信が多くなるが、個々に寄り添い、声をかけ、表情や様子を見ていくよう心掛けた ・子どもの表れをよく見て気になる面、良い面を担当で共有するようにした ・子どもの達成感や生活・遊びの中で喜びを共有するよう心掛けた ・保育士が笑顔で楽しい保育をしていくよう心掛けた 			A		
(園関係者評価を受けての改善策) 毎週の週案会議で子どもの様子や環境作りを報告し合い保育に生かしていく					

II 各領域にかかわること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	園関係者評価委員会から	
こども園における教育及び保育	(1) 0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	<p>一人一人の発達や経験を把握し理解した上でわくわくしながら園生活が過ごせるよう援助する</p>	A	評価	<p>・小学校の生活がオンラインを使用したり、ずいぶん変わってきています。いろいろなものに興味を持ち「やってみよう」と言う気持ちを育てたいです</p> <p>・0歳から年長児まで一人ひとりの個性や成長を見ながら、一貫してわらべでの教育を組み立てることができていると思います。これからも期待しています</p> <p>・子どもも親も行事や活動をワクワクドキドキしながら期待しています。先生たちは計画・準備・活動など大変な思いをしていることが伝わります</p> <p>・わらべの行事や活動体験はいつまでも心の中に残っていきたく思います</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿をよく見て一人ひとりに合わせて声掛けや対応をするよう心掛けた ・特に乳児には思いを受け止めて対応している ・個別に成長を見ながら合った経験・体験をしていくよう援助した ・子どもたちと一緒に笑い合い、全力で楽しめる保育を心掛けた ・コロナ禍でできることを思い切りやってきた ・クラス皆で1つのことに向かって活動を楽しめるようにした ・個々に対応した活動も進めた ・登園時間の違い、生活環境の違いの子どもをとらえ一人ひとりとゆったりしたい ・楽しく過ごす中にもルールがあり、安全に過ごせるように見守る ・その日ワクワクしたり、楽しかったと子どもが発する保育をめざしている 		A	
(2) 1日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	<p>スキンシップを取り、子どもに寄り添い、安心して穏やかな気持ちで生活できるよう援助する</p>	A	評価	<p>・自分の生活をコントロールできる力を安心できる環境の中で身につけさせたいです</p> <p>・乳児以外は幼児も保育教諭もマスクでのスキンシップになりお互いの表情を読み取りにくい環境ではあるが、子ども一人ひとりに寄り添って保育する姿がうかがえました</p> <p>・子どもの言葉や様子から先生たちが安心して過ごせる環境を作ってくれていると思われま</p> <p>・子どもが皆で経験してやり遂げことはいつまでも忘れないと思います</p> <p>・担任の先生以外でも子どもの名前を知ってくれていて嬉しく思います</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・朝はなるべく玄関でおはようと声をかけ迎え、クラスに誘導した ・生活の基本となる乳児は信頼関係を築いていけるよう心掛けた ・マスク・食事・消毒など、あらゆる制限や我慢をさせる日々であったが話すこと、聞くこと、笑い合うことスキンシップは大事にした ・保育時間の違いの子どもたちの生活（給食・昼寝・おやつ）などの課題を考えていきたい ・子ども一人ひとりに挨拶し声をかけ、話をするよう心掛けた ・膝に座らせたり、寄り添いながら話したり一緒に遊ぶようにした ・コロナ禍 マスク生活の為 乳児は保育者の表情が読み取りにくい部分もあった ・幼児は生方習慣が自分でできるように援助している ・ゆったりした雰囲気の中でいねいに関わるようにした ・家庭との生活を合わせてフォローできるように心がけている 		A		
	<p>(園関係者評価を受けての改善)</p> <p>* 子どもの様子ををしっかりと捉え、個人記録を記入し、学年の発達目標に沿い個人の成長を把握する</p> <p>* 保育の楽しみを感じるような取り組みをする 教師も子どもも楽しめるような活動をする</p>				

	(3) 環境を通して行う教育及び保育	五感を通してみたいと思うような経験を広げていけるような環境を用意する	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍 苦労が多かったと思います ・環境の特性を生かした教育への取り組みはわらべの保育の基本でもあります。これからもこの時代にあう方法で実行して下さい ・家庭では止めてしまう活動を伸び伸びやらせてくれていると思います ・上靴を履く練習をして欲しいです 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・人的・物的環境を整えたかったが、成長にあった環境までは難しかった ・安全面が第一になり規制が多くなってしまおうと感じている ・意欲が持てるような環境を考え、変化を加えながら過ごした ・安全面を考え、職員間で留意点など確認していく ・遊びの環境を整えて子どもが自由に選択できるようにした ・乳児は裸足の生活が冬は冷たいと思う。 ・乳児も感触遊び・製作遊び・マット遊び・新聞紙遊び野菜作りなど取り入れた ・土・砂・泥・水等充分触れて遊びが深まるように保育者も一緒に遊びに入った ・裸足教育をしているが裸足を嫌う子や汚れを嫌う子がいる ・継続できる遊びをしていきたい 				
		(園関係者評価を受けての改善) ＊感性を育てることの大切さを教師間で持ち、様々な体験を計画する				
2 安全管理・指導	(1) 事故防止 防災	災害・不審者・交通安全など様々な状況を想定し、園児に安全行動を身に着けさせる	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面では気を使うことが多いと思います。教員たちに余裕を持つことが大事だと思います ・園外保育の多いわらべにとっては重要な課題です。心配な面も多い防災・交通・防犯など計画的に訓練し身に着けさせてください ・地域にある組織や企業などとも連携して避難場所や支援など要請して下さい ・園での防災訓練の話をしてくれるので子どもの心に残っていると思われます 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、防災・防犯訓練を計画しいろいろな設定をして行動できるようにした ・子どもの年齢にあわせた避難方法を保育者間で話し合った ・散歩などは避難場所や「駆け込みができる家」のマップを作った ・事故やヒヤリハットがあった場合は職員間で情報を共有し、共有したことが定着していくようにしたい ・園外保育では交通安全と不審者対応で常に気を配っている ・乳児も散歩によく出かける為、職員を増やしたらよい ・屋上のプール遊びの避難の仕方を工夫したい ・保育者自身が安全管理にもっと敏感になりたい ・防災訓練を毎月行うことで子どもが不安にならず、身につくようにした 				
		(園関係者評価を受けての改善) ＊毎月、防災計画を立て、様々な想定で実施している。安全面については教師間で共有していく				
3 保健管理・指導	(1) 健康教育の充実	基本的な生活習慣が身につく健康に過ごそうとする	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の時代でもジェンダーや性教育を考えていくこともだいじです ・コロナ禍に合わせた生活様式は大人より子どもの方が受け入れやすいと思います。保育教諭のストレスは大きいと思ますが頑張ってください ・子ども自身もマスクなど気を付けています ・先生たちの仕事量が増え大変だと思います 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月 保険便り・食育だよりを通して情報を発信した ・個に合わせた対応をした ・コロナ禍 手洗い・うがい・消毒と子どもも当たり前のようによくやっている ・乳児も自分で石鹸を使い手洗いが上手になった ・コロナ禍、教職員も人ごみを避け、大人数で会合しない、外食など注意している ・コロナ禍 全体の交流がなかなか持てない 				

		(園関係者評価を受けての改善) *学年ごと目標を持ち、基本的な生活習慣が身につくように保育する *特にコロナ禍、手洗い、消毒に配慮していく			
4 特別支援 教育	(1) 支援体制づくり の推進	個々の状況に合わせて支援計画を立て、全職員がかかわりを 持ち援助しようとしている	B	評価	・気になる子への支援は教職員全員で 共有し取り組んで下さい
		<ul style="list-style-type: none"> ・気になる子の支援計画を立てて、職員で共有できる環境を作っていきたい ・保育者間の伝達方法を考えていきたい ・気になる子・援助したい子の情報を共有できるようにしたい 			
		(園関係者評価を受けての改善) *気になる子の把握、保護者との話し合いなど園長・主幹教諭を中心に計画を立て、全職員が共有して援助できるようにする			
5 組織運営	(1) 組織体制の 充実	日常の保育や園行事について手紙、パネル、写真など利用して、 保護者に説明や協力事項を伝え職員間で連携して教育保育を 進めている	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との意思疎通が難しくなっています ・SNSでの発信も大事になってきます ・日常の保育はなかなか知ることができませんでしたが、ホームページを見たりするので、ホームページの有効な利用を検討してほしいです ・園での様子がクラス便りや写真入の園便りで伝わってきます ・保護者も先生の大変さを思うと連絡帳に記入することも躊躇しています ・園便り等で写真が掲載されていて良いと思います
		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者にお手紙等で写真など入れて活動の様子を伝えるようにした ・職員間の伝達は回覧を回しているが、始業時、短時間のミーティングがあっても良いと思う ・乳児クラスは日々 ボード・蓮格ノート・口頭で保護者に丁寧に説明した ・コロナ禍、保護者との話ができず、お便りのみになっている ・保育時間が違うため、保護者への発信が難しいので考えていきたい ・お便り・毎日の連絡ノートなどで保護者との連携をしている ・乳児・幼児間の交流や把握がもう少しできるようにしたい 			
		(園関係者評価を受けての改善) *保護者に保育の伝達や懇談会開催など丁寧にしていく *ホームページの活用もしていく			
6 研修	(1) 研修体制の 充実	「わらべ独自の保育」どんな遊び・環境・子どもの成長への手立て 具体的な共通理解を進めているか	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を取るのが大変だと思いますが研修や話し合い・確認など大切だと思います ・わらべの保育・教育理念を保障するのは研修だと思います
		<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ研修で保育について考えたり共通理解をするようになった ・子どもの表れが、会議の時に話題になるようにしたい ・お散歩・戸外遊びを多く取り入れた ・こども園で保育時間が違う子どもたちがいることで「わらべの保育」を見直していく必要がある ・年3回の研修が定着してきた。保育者同士の考えを伝えあえる場所にしたい ・わらべの保育についてももう少し話し合いをしていきたい ・保育の相談を先輩にしていきたい ・研修で、どのクラスも子どもの思いを大切に保育していると思う 			

		(園関係者評価を受けての改善) *「わらべの保育」について研修し共通理解をしていく *いろいろな研修会に参加し自己研鑽をしていく			
7 教育・保 育環境 整備	(1) 支教育・保育 環境の充実	ごっこ遊びや子どもがイメージを豊かにする遊びの環境を工夫しているか	A	評価 A	<ul style="list-style-type: none"> 我が子が喜んで登園する姿は親にとっては一番うれしいことです。 遊びの充実は大切です 子どもの発想を含めた遊びは子どもの自発性を伸ばすと思います。環境構成を工夫して取り組んでいると思います 季節感のある掲示が可愛いと思います
		<ul style="list-style-type: none"> コーナー作りなど進めてきたが、もう少し工夫をしていきたい 子どもの様子をみてコーナーを変化させた。必要なものを増やしたい 廃材・製作教材・など自由に使えるように環境を整えた 乳児も発達に合わせてイメージを持っているのでコーナーや用具など保育を考えていった ままごとコーナーをもう少し充実したい 季節感・行事などのイメージが付くような壁面などをさらに作っていきたい 			
		(園関係者評価を受けての改善) *わらべの保育の中でも重要なイメージ遊び、遊びを工夫する、子どもが考える保育を計画していく			
8 家庭との連 携・協力	(1) 家庭教育へ の支援機能 の充実	子どもの発達や活動の様子を降園時や保護者面接・懇談会で伝えたりお便り・ボードなどで積極的に知らせている	B	評価 B	<ul style="list-style-type: none"> この時期、難しいことだと思います コロナ禍、保護者とのコミュニケーションは大変で苦しい期間だと思います 地域でも、行事の中止や延期など多くの行き違いなど発生し混乱がありました 懇談会や面接がなかなかできず残念な思いがあります 先生たちと話がしたかったです。コロナが落ち着いたら交流の場が欲しいと思います
		<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍、保護者との話ができないが、様子を見て声をかけていった コロナ禍 保護者と話ができず、保育者の思いが伝わらない、思い違いされているなど保育者が苦しいことがあった 			
		(園関係者評価を受けての改善) *コロナ禍大変であるが、保護者との懇談、面接、参観など計画し、実施できるよう配慮していく			
9 近隣の園と の連携	(1) 近隣の園と の連携の推進	近隣の小中学校との連携を図り、交流、情報交換を進める	B	評価 B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は学校・地域のみならず、全てで長期にわたり中止や延期があり参加できませんでした
		<ul style="list-style-type: none"> 小学校の先生との公開保育を行い、話ができ良かった 			
		(園関係者評価を受けての改善) *幼小関連が大事になってきているので、小学校との連携を実施していく。また、近隣のこども園と連絡を取り意見交換など実施していく			

10 地域との 連携	(1) 信頼される園 づくりの推進	地域住民や施設等とのかかわりを大切にしながら、園だけでは できない体験をする機会を持つようにする	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと接したいと思っている高齢者もいると思います。コロナの収束後、交流をしてください S型デイサービスの参加もできなかったので残念でした。状況が許すようになれば参加して交流して下さい
		<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍、地域の人との交流ができなかった 地域の方で保育補助をやってくれるようになり助けられている 園外保育で色々な施設に連れて行ってやれなかった 乳児ではお散歩で子どもから地域の方に挨拶したり声をかけたりしていた 飼い犬の方が話しかけてくれたり、八百屋さんでの買い物ができる 散歩しているとノーマスクの方がいると避けてしまう 		A	
		(園関係者評価を受けての改善) *コロナ禍、大変であるが今後、Withコロナになっていくので、できる範囲で地域とのかかわりを持っていく			
園から 経営のまとめ(成果と課題)			園関係者評価委員会まとめ		
1 園から経営のまとめ(成果と課題) *今年度もコロナ禍、大変な1年であった。コロナ変異株により、園児や園児の家族の感染があり、濃厚接触者の判定や学級閉鎖を行ったり、園としても対応が大変であった。 ・教職員においても、コロナではなくても、いつも以上に家族の発熱や体調が悪い場合は欠勤したり、心配な教職員は抗原検査を行って、保育に教員が欠けないようにした *コロナ禍、保育において活動や行事など配慮しながらも、子どもが生き生きできる活動に取り組んだ 年長児には最後の園生活となるので、なるべくいろいろな体験をするようにした *園外保育も行く場所等を検討し今年も〇〇館など箱モノは避けるようにした。公園や広場、土手など多くいくようにした *保護者との交流や懇談会・参観など実施できなかった。いろいろな工夫をしていくことを考えたい			*コロナ禍、学級閉鎖もあったが、休園にもならず、先生たちの感染対策の努力があったからだと思います。 *このような状況の中、子どもたちが楽しそうに毎日笑顔で過ごせたのが良かったです *保護者は懇談会や参観を実施してほしかったです *わらべの保育については先生方を信頼しています *こども園5年目になるので乳児保育の在り方小学校入学までの6年間のわらべとしての長期計画も必要となると思います		
2 園関係者評価の意見を受けて(改善策) *コロナ禍、今後「Withコロナ」となっていくので保育についても検討していきたい *保護者との懇談会・参観など工夫して実施したい *気になる子の対応を園全体で共有していく *0歳～卒園までの6年間の一貫した保育の長期計画を立てていく					